

目黒区納税貯蓄組合連合会優秀賞

温泉大国日本と入湯税

目黒区立大鳥中学校 三年

高木 樹

私の家の近くには銭湯が何軒があり、子どもの頃から週末父と一緒に銭湯に行くのがとても楽しみでした。幼稚園の頃まではずっと無料だったので、小学生になり、私も父もお金を払うようになると、大人になつた気がしました。そして中学生になつた今は、父と二人分払い、本当に大人になつたと実感しています。銭湯の大入料金は、一人五百五十円、二人で千百円です。改めて考えてみると高いと感じました。家にお風呂があるのに近所の銭湯に行くというのはぜいたくだと思います。しかし、日本人にとつて大きなお風呂や温泉というのはとても魅力的で、わざわざ遠くまで行つたり、お金を払つてでも入りたいと思うものだと思います。私は日本人が大好きな温泉に関する税金、入湯税について考えました。

私の家族は温泉が好きで家族旅行で何度も温泉に行っていますが、宿泊費などは両親が払つていたため、今まで入湯税という税金を納めていることを知りませんでした。入湯税とは、温泉を使った入浴施設で温泉に入ったときに支払う地方税で、温泉に入つた客に代わつて施設の経営者が市町村に納めるという仕組みにな

っています。一人一日百五十円ですが、市町村ごとに違う金額を決めることもできます。この入湯税は日本独自の税金で、他国にはないそうです。最近日本への外国人観光客が増えていて、日本中の温泉地に外国人がいます。観光客の中には、なぜ温泉に入るだけで税金をとるのかと思う人もいるかもしれません。しかし、この入湯税はこれからも多くの人が温泉を利用するためには必要なものなのです。

日本は温泉大国として、チップは不要だけど入湯税は必要というふうなことをもつとアピールしても良いと思います。その代わり、納めてもらつた入湯税で、今の温泉を維持するだけではなく、よりよく整備するためにどのように使つたのかを提示しなければなりません。また、納税に対する抵抗をなくしてもらうために、入湯税の高額納税者へ宿泊券や温泉施設利用券などを配布するというのもよいと思います。こうすることで、入湯税は、払いたくない税金ではなく、払つてもよいと思える税金として、これからも温泉を利用する多くの人に気持ちよく納めてもらえると思います。

私はこれから日本全国のいろいろな温泉に行き、きちんと入湯税を払つて、素晴らしい温泉を楽しんでみたいと思います。